第 243回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

人との交流 ～ 『宝を見つける』 ～

2024年3月5日早朝『樋野動物園の春風のようなゴリラ 』(目白がん哲学外来カフェ代表)の森尚子氏から『京都の八坂神社に、先生がよく話される因幡の白兎の像がありました。』（画像）とのメールが届いた。 大いに感動した。 筆者の故郷は、今から1312年前、712年に編纂された『古事記』に登場する、医療の原点を教えてくれる大国主命の出雲大社(画像)から8キロほど、峠を越えて美しい日本海に面した小さな村が、私の生まれ育った出雲市大社町鵜峠である。 隣の鷺浦地区と合わせて鵜鷺(うさぎ)と呼ばれている。 713年に編纂が命じられたという『出雲国風土記』にも登場する歴史ある地である。

午後は『がん哲学外来メデイカル・カフェ＠よどばし』(画像)に赴いた。 事前に30を超える質問を頂いた(下記は抜粋)。 大変有意義な充実した時であった。

1. 便利な世の中になってもストレスは減ってないように思えます。 ストレスを増やさないようにするには どうすればいいですか？
2. 先生は、がんを『放蕩息子』とおっしゃいます。 聖書に出てくる『放蕩息子』は、最初は親に心配をかけ、問題を起こしますが、のちに回心して父のもとに帰ります。 様々な病を通して気づかされることもたくさんあり、病気は、決して忌み嫌うだけのものではないと、この『メディカル・カフェ』で教えて頂きました。 がんを『放蕩息子』という意味を 改めて教えてください。
3. 私は普段、職場と家庭の間を行き来しているだけです。 『宝を見つけるために外に出よう』として SNS などを見たりしますが、なかなか『宝』は見つかりません。 やはり、生身の人との交流が必要でしょうか。
4. 『あいまいなものは 愛を持って語るしかない』という言葉の処方箋について。 この場合の『愛』とは、『相手を思いやる心』と考えて良いですか。 日本の社会では『愛』という言葉は あまり日常会話で使わないように思います。 敢えて『愛』という言葉を使うのは、単に『思いやり』よりもっと深い、隠された意味があるのでしょうか。

大国さまと白うさぎ

がん哲学外来
メディカル・カフェ@よどばし
がん哲学外来とは、
がんと告知されてから、あなたが考える
「悩み・不安・想い・願望」などを
直に聴いて「解消できる道」を一緒に探し
「医療の隙間」を埋める活動です。
がんを患うご本人だけでなく、
支えられている家族の方々の相談も行います。
今や世界的にも注目されている
「がん哲学外来 メディカル・カフェ」
是非どなた様も、お気軽にご参加ください。
がん哲学外来 メディカル・カフェ@よどばし
(2024年1月現在、感染症状況を鑑みつつ、
ミニ講演と質疑応答・カフェタイムを組み合わせた短縮プログラムで行っています。)
2024
1月 9日(火) 13:30～15:00
2月 6日(火) 13:30～15:00
3月 12日(火) 13:30～15:00
4月 2日(火) 13:30～15:00
5月 (5月はお休みです)
6月 4日(火) 13:30～15:00
7月 28日(日) 13:30～15:00
メディカル・カフェ@よどばし 10周年記念
8月 13日(火) 13:30～15:00
9月 17日(火) 13:30～15:00
10月 15日(火) 13:30～15:00
11月 19日(火) 13:30～15:00
12月 10日(火) 13:30～15:00
恵泉女学園理事長
順天堂大学 名誉教授
新渡戸記念中野総合病院 新渡戸稲造記念センター長
一般社団法人がん哲学外来理事長
樋野 興夫 先生
会費無料
※講師のご都合で日程が、また感染症対策の状況でプログラムが変更致しますので、
事前に日程を今一度ご確認ください！個人面談の予約は3日前までにお願いします。
【専用サイト】
https://yodobashi-church.com/new/blog/local/medicalcafe/opening-3 E-mail: yobashi@church.email.ne.jp
ウエスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会
https://yodobashi-church.com
169-0073 新宿区百人町1-17-8 tel:03-3368-9165